

シーン 1

大阪の顔にふさわしい御堂筋

- 都市のメインストリートは、その都市のイメージを伝える重要な役割を担っており、メインストリートを活かしたみちづくりが、これから の都市のあり方を決めるとも言われています。
- 御堂筋や周辺地域が持つ歴史や文化を活かすとともに、シンボルとなるイチョウ並木や沿道建物と一体となったまちなみを形成するなど、都市の顔としての風格を備えた、より質の高い空間が期待されます。
- 御堂筋のフルモール化により、これまでにない広大でシンボリックな空間が創出され、その空間を歩行者が安心して快適に、楽しみながら回遊でき、大阪らしさを感じてもらえる「みち」となることが期待されます。



大阪の顔にふさわしい風格のある景観

- 御堂筋のシンボルであるイチョウ並木を保全、継承するとともに、イチョウの存在感を引き立たせる空間、イチョウの魅力を高める空間づくり。
- 沿道景観とともに、都市の顔にふさわしい風格ある、洗練された景観づくり。
- 御堂筋イルミネーションなど、世界に類を見ない景観を創出し、国内外の人々をひきつける空間づくり。



御堂筋の夜景

人を中心の道路空間

- 都心部の交通ネットワークの再編及び御堂筋を「車」から「人」中心の空間に転換。
- 歩行者を優先しながらも、パーソナルモビリティなどの新たな移動ツールがお互いにゆずりあい、協力する「共有される空間(シェアド・スペース)」の考え方をふまえた空間づくり。



梅田地域 うめきた広場の梅田ひかた祭

(主催:(一社)グランフロント大阪FM)



船場地域 道修町通の整備計画イメージ

(資料提供:道修町まちづくり協議会)



クリスク長堀等の地下空間

周辺エリアとの歩行空間ネットワークの形成

- 船場地域等の歴史・文化、道頓堀川・中之島の親水空間、地下空間の高度なインフラ機能等とのネットワークを強化し、御堂筋周辺を含めた面的な視点で、観光、歴史・文化、産業面の新たな魅力を創造。

- 周辺のまちづくりなどと一緒にした、面的な視点による大阪の顔づくり。



道頓堀川の歌舞伎船乗り込み



御堂筋沿道まちづくり3団体共同提案

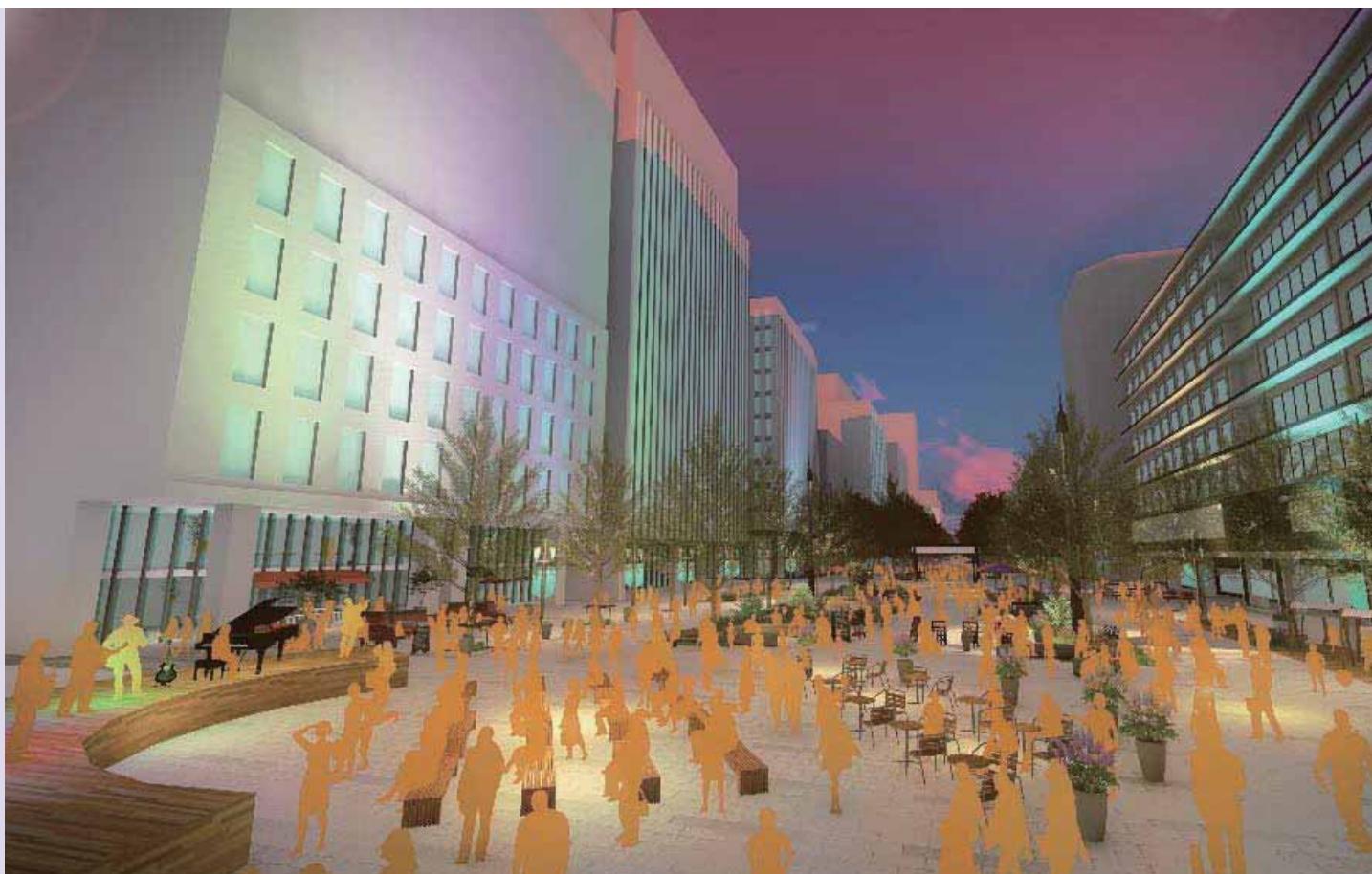


スペイン バルセロナ ラムブラス通り

シーン 2

新たな魅力が体験できる御堂筋

- アジアにおける他都市の発展など、都市を取り巻く社会環境、経済情勢は大きく変化し、都市間競争が一層激化しています。都市間競争に打ち勝つためには、国内外から呼び込んだ人、モノ、資金、情報といった都市資源の交流を促す場、新たな魅力が体験できる場を創出していくことが考えられます。
- このような場を創出していくためには、従来の枠に捉われず、道路空間利用に関する規制の緩和や新たな制度整備をはじめ、市民や企業の積極的な参加・協働、ひいては民間主体による公共空間のマネジメントが行える仕組みづくりなどの取組みがあげられます。



出会いの空間を創出

- 幅員約44メートルという御堂筋の持つ広大な空間や沿道ビルの壁面後退部分を一体的に活用するなど、インパクトのある非日常的なイベントなどを開催することで、「ひと」と「まち」、そして「ひと」と「ひと」が出会う「場」を創出。



御堂筋オータムパーティー（主催：御堂筋パーティー2017実行委員会）

公民連携により新しい出会いいや ビジネスチャンスを創出

- 公共用地、民地などの用地区分や従来の制度に捉われず、道路空間利用に関する規制を緩和することで、多様な人材や企業をよびこみ、道路空間を最大限に活かした利活用、アクティビティを促すことで、新しい出会いいやビジネスチャンスを創出し、企業活動の活性化、新たにぎわいを創出。



24時間ひとをひきつける「場」を創出

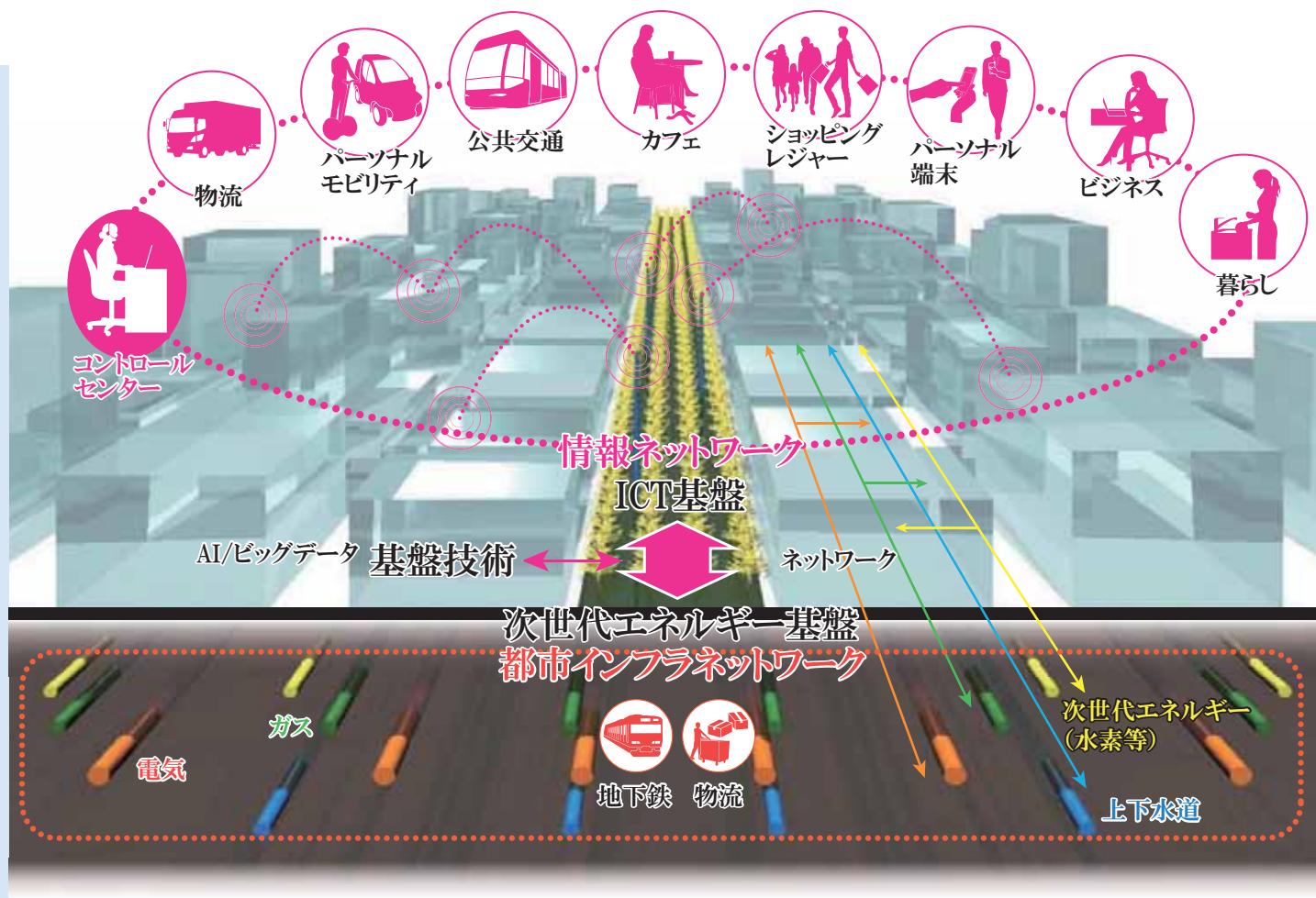
- 24時間稼働する多機能エリアとして、人々の五感を刺激し魅了するイベントやアクティビティなどが定期的に開催されるなど、道路空間を通じてひとをひきつける「場」を創出。



シーン 3

都市の成長を支える多様な機能を備えた御堂筋

- 都市や経済の成長を促す都市インフラとして、道路に課せられた役割は大きいと言えます。特に御堂筋においては、様々な都市機能が集積し、優れた立地環境を活かした拠点間のネットワーク化が可能であることから、空間機能の多様化や高度化を図ることで、その役割を一層果たしていくものと思われます。
- 例えば、暮らし・ビジネスといった生活インフラを含め、電気・ガス・水道などの都市インフラ全体を新たな情報システムによりネットワーク化を図ることで、効率的で持続可能な都市への転換につながります。



持続可能なまちづくり

- SDGsの考え方に基づく、持続可能な都市・エリアを創出。
- まちで働く人、まちに住まう人、訪れる人など様々な人びとにとって安全で快適に、そして豊かに過ごすことのできる持続可能なまちづくりをめざし、都市SDGsと称される目標11「持続可能な都市(住み続けられるまちづくりを)」を中心に、他16の目標に貢献できる都市・エリアの形成。

11 住み続けられる
まちづくり



《SDGs 目標11「持続可能な都市(住み続けられるまちづくりを)」》

～都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする

- ・目標11では、テーマ別ターゲットとして、住宅供給、交通整備、都市計画、遺産・遺構の保護、脆弱性の軽減(災害)、環境保全、公共空間の整備が示されています。
- ・なかでも道路空間に直接関連する公共空間の整備については、「2030年までに、女性・子ども、高齢者および障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。」といったターゲットが示されています。



最先端技術の展開

- IoT(モノのインターネット)やビッグデータなど、新たなICTの活用による情報ネットワークの構築・サービスの提供。
- 遠隔操作やロボット・自動制御技術を用いた防災システムや効率的な道路の維持管理システムなどの構築。
- 再生可能エネルギーなどを活用して、道路そのものが発電媒体となるインフラシステムの構築。
- 曜日で異なる交通流や緊急車両の通行、イベントなど求められる空間機能にフレキシブルに変化をする道路構造の実現。
- 道路空間に最新技術を導入し、ショーケースとして世界に発信。



スマートコミュニティの形成

- IoTなどの最先端のICTを駆使して、都市の機能やサービスを効率化・高度化し、生活の利便性や快適性向上する都市・エリアの形成。
- 国際競争力の強化、地域のブランド力の向上に向けた、水素エネルギーや再生可能・未利用エネルギーをはじめとする分散型電源の活用や、ICTによるエネルギー・マネジメントシステムの構築。
- 複数の施設や建物間など面的な広がりを持ったエリアをネットワーク化し、災害時の防災・減災力の向上及び平時の低炭素化を実現するエネルギー供給システムの構築。



※SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標):
2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標で、地球環境や経済活動、人々の暮らしなどを持続可能とする17の分野別の目標と、169項目のターゲット(達成基準)が示されている。



5. 段階的な空間再編

御堂筋将来ビジョン実現に向けて

御堂筋将来ビジョン実現に向けては、都心部の交通ネットワークの再編や沿道建物の誘導、持続可能な都市への転換に向けた社会インフラの構築など、様々な分野において段階的に取組むことが必要であるため、まずは側道を活用した空間再編に取り組むこととします。こうした取組みをふまえながら御堂筋完成 100 周年をターゲットイヤーとして検討と実践を進め、将来ビジョンの実現をめざします。

【側道歩行者空間化に向けたこれまでの取組み】

御堂筋千日前通以南モデル整備 平成28年11月完成

- 側道を活用し、喫緊の課題となっている歩行者と自転車が歩道内で輻輳している状況の解消を行うとともに、御堂筋全体の道路空間再編のイメージを現地で可視化し、歩行者・自転車通行の安全性や快適性等の道路空間のあり方の検証につなげていくことを目的として実施しました。



整備前 → 整備後

現況

▶ 御堂筋完成80周年(2017年)



【エリア特性】

御堂筋沿道の特性はエリアによって変化しています。今後、空間再編を進めていく上では、こうした特性をふまえ、まちと道路との関係性に配慮しながら、面的な視点で空間づくりを進めて行くことが必要です。

淀屋橋～中央大通



ビジネス・オフィスが中心

- オフィスが集積する落ち着きのあるエリアで、4mの壁面後退部ではマルシェやコンサートなどのにぎわい創出に取組まれています。

自動車の交通量が多い

- 長堀通以南と比べて自動車の交通量が約3割多くなっています。

中央大通～長堀通



業務と商業が混在

- 業務とともに、ブランドショップ等の高品質な商業施設が集積するエリアで、都心でありながら落ち着きのある空間となっています。

自動車の交通量が多い

- 長堀通以南と比べて自動車の交通量が約3割多くなっています。

長堀通～難波



商業・店舗が中心

- 百貨店をはじめとした商業施設が立地するとともに、集客・観光資源が集積するエリアで、華やかな雰囲気を形成しています。

歩行者の交通量が多い

- 近年、インバウンドの増加もあり、歩行者の交通量が特に多くなっています。

将来ビジョン実現に向けたファーストステップとして側道歩行者空間化に取組みます。

ファーストステップ

側道歩行者空間化

▶ 短・中期目標

短期目標：千日前通から道頓堀川区間は東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年

中期目標：道頓堀川以北は2025日本万国博覧会誘致を行っている2025年



【側道歩行者空間化に向けた主な取組み】

- エリアの特性をふまえた、面的な視点での空間づくり
- 社会実験などによる交通や荷捌きへの影響の検証
- 交通や荷捌き、自転車の通行や駐輪のあり方、空間の利活用手法などを地元関係者と議論する場を設置
- 将来ビジョンを推進するための持続可能な公民連携体制づくり…など

※上記に示した取組みの進捗状況によっては、目標年次を変更することがあります。

将来ビジョン

▶ 長期目標

御堂筋完成100周年をターゲットイヤーとして設定



【将来ビジョン実現に向けた主な取組み】

- 都心部全体の交通ネットワークの再編
- 沿道建物の誘導
- 新たな情報システムによる都市インフラ全体のネットワーク化
- 歩行者と多様なモビリティが安全に共存できる仕組みづくり

【側道歩行者空間化に向けたこれまでの取組み例】

御堂筋側道閉鎖社会実験 平成25年11月

- 新橋交差点から難波西口交差点間の約1kmの側道を実際に閉鎖し、「側道の通行規制による交通影響の確認」、「側道に自転車通行空間を確保した際の歩行者等の安全性の確認」などを目的として側道閉鎖社会実験を実施しました。
- 結果としては、渋滞など本線における過度な交通影響は確認されませんでしたが、アンケートではドライバー等7割近い方から通常よりも混雑を感じたとの回答があり、本線の交通影響を可能な限り緩和する対策についての検討が必要であることが確認できました。



御堂筋にぎわい創出社会実験 平成26年10月

- 御堂筋(伏見町～平野町)の東側街区の側道を閉鎖し、歩道や沿道建物のセットバック空間と一体となったにぎわいを創出する社会実験を実施しました。
- にぎわい活動は好評で、実験前と比べて歩行者交通量が増加しています。また、側道閉鎖による交通状況については、大きな影響は見られませんでした。

